

青少年の育成と地域

～ 中学生の地域貢献 ～

今、地域における中学生の活動機会をどのようにとらえ、彼らに何を期待するのかは、中学生自身の成長においても地域コミュニティの形成においても、大切なテーマだと思います。

発行：小田原市青少年問題協議会

発行日：平成25年8月15日

■ 釜石の奇跡

平成23年3月11日。
東日本大震災の発生時に、小中学生の生存率99.8%という「釜石の奇跡」の原動力となったのは、釜石東中学校の生徒の迅速にして的確な避難行動によるところが大きいと言われています。

また、救助される側となってもおかしくない立場の中学生が、地域のお年寄りを救助する側として活躍したというこのときの事実は、中学生が社会から様々な恩恵を「与えられる側・受け取る側」だけの存在ではなく、「与える側・貢献する側」としての存在でもあることを、はっきりと確認できた一例でもありました。

◆ 中学生という若いチカラ

今、中学生という若い力の、「地域を単位としたまちづくり」や「地域貢献」への活用といったことが、全国的に、大切なテーマの一つとなっています。

既に、私たちの近くにも、学校を離れた「地域」というフィールドの中で、独自の活動を始めている中学生がたくさんいます。

「一体、中学生に何ができて、何を期待すればいいのか」……。私たちの身近な「地域」という枠組みの中で、もう一度、考えてみる必要があるのではないのでしょうか。

● 身近な活動を参考に

今回、「市内公立中学校における地域活動」の一例と、青少年問題協議会の中で発言された「青少年の育成と地域」に関する意見を紹介させていただきます。

私たちの近くで、地域の人たちとの交流を続け、街づくりの担い手として活躍する中学生たちの様子などが、みなさんの参考となり、一層の地域活性化と青少年の健全育成が図られることを、願っています。

《小田原市青少年問題協議会》

小田原市青少年問題協議会は、青少年の健全育成に関する総合的施策の樹立や実施のため、必要な事項を調査審議し、或いは関係機関相互の連絡調整を図ることを目的に設置された市の附属機関で、青少年関係団体からの推薦を受け、市長が委嘱した委員により、構成されています。現在は「青少年、特に中学生の地域貢献」をテーマに、意見交換等を行っています。

【現委員の所属団体等】 ※50音順

小田原市長(会長) 小田原警察署 小田原市議会 小田原市教育委員会
小田原市更生保護女性会 小田原市子ども会連絡協議会 小田原市自治会総連合
小田原市社会教育委員会 小田原市青少年育成推進員協議会
小田原市青少年環境浄化推進委員協議会 小田原市青少年健全育成連絡協議会
小田原市スポーツ推進審議会 小田原市小学校校長会 小田原市地域婦人団体連絡協議会
小田原市中学校校長会 小田原市PTA連絡協議会 小田原市民生委員児童委員協議会
小田原地区高等学校校長会 小田原地区保護司会 神奈川県足柄下教育事務所
神奈川県小田原児童相談所 神奈川県西地域県政総合センター

<事務局:小田原市 子ども青少年部 青少年課 (市役所5階) TEL0465-33-1723>

国府津中学校

《吹奏楽演奏で異世代交流》

核家族化が進み高齢者とのふれあいの場が少なくなっていることなどから、敬老会の余興として吹奏楽の演奏や寸劇、民謡の会の方との一緒に踊りなどにより、地域における異世代交流を図っている。また、夏休み「少年スポーツの日」や健民祭でもマーチング演奏を行うなど、地域住民とのコミュニティ活動にも取り組んでいる。



音楽を通じた地域交流

千代中学校

《吹奏楽演奏で異世代交流》

上府中地区と豊川地区の敬老会で吹奏楽の演奏を行い、地域における異世代交流を図っている。豊川地区では当日、演奏だけではなく、主催者である敬老会のメンバーと共に受付係としても活躍し、少しでも多くの地域の方々とふれあいが図られるよう努めている。その他、地域のイベントやボランティアにも参加協力している。また、「ボランティアカード」を作成し、地域からの依頼に応えられるよう努めている。

橘中学校

《合唱で異世代交流》

毎年、老人ホームへ出向き合唱を披露。家族と離れ暮らしている高齢者と触れ合い、元気づけながら異世代交流を図っている。生徒たちが歌う合唱に涙を流して感動し、さらに、アンコールが起こるなど非常に好評を得ており、恒例の行事となっている。

鴨宮中学校

《吹奏楽演奏で地域交流》

毎年、商店街や自治会と協力し、地域住民のコミュニティの場となるイベントの「川東ひかり祭り」において吹奏楽部が演奏を行い、地域住民とともに地域の活性化に取り組んでいる。さらに、美化活動や防災訓練などへボランティアとして参加協力し、地域住民との連帯が図られるよう取り組んでいる。

◆ 青少年の育成と地域「失われたものを取り戻す」

(青少年問題協議会での委員発言より)

横浜の小中高一貫教育校に赴任していた時に、小学校から1つの要望があった。その要望は、高校生に算数を教えるボランティアとして学童保育(放課後児童クラブ)へ来てもらえないかというものだった。実は、高校生が小学生に算数を教えるという行為は、「今の時代に失われたものを取り戻す、補完する」という要素がある。現代は、少子化で兄弟との触れ合いが希薄となってしまったが、学童保育の活動の中で、高校生は小学生から「お兄さん」、「お姉さん」として頼りにされると、下手なことはできないと思い、そこに責任感が芽生えてくるものである。また、高校で行っているインターンシップで目に見えて効果が感じられたのは保育園での体験活動だった。こうした青少年の社会貢献活動や地域での体験は、本人にとっても、将来的に生かすことができる、非常に大切なものではないか。

泉中学校

《美化活動で地域貢献》

毎年、地域の方々と協同で、狩川の土手や河原の美化活動を行い、郷土を愛する気持ちをはぐくみながら、地域の方々とふれあい続けている。また地域の方々と力を合わせ不法投棄された大型の粗大ごみの撤去にも取り組んでいる。美化活動終了後には用意されたトン汁を飲みながら、地域の方々と懇談をし、交流を図っている。



白山中学校

《あいさつ運動で地域コミュニティ》

地域コミュニティの基本であって一番身近である声掛け「あいさつ」を学校・家庭・地域へと広げようと、校内において6か月間にわたりあいさつ運動に取り組んだ。さらに、PTAと連携し足柄駅前でもあいさつを呼びかける運動を実施したところ、活発なあいさつが飛び交うようになり、気軽に地域の方々とあいさつが交わされるようになった。また、地域の清掃活動などのボランティア活動にも積極的に参加している。

ボランティアによる地域貢献

城山中学校

《美化活動で地域貢献》

北條五代まつりやツデーマーチなどの小田原市の行事や、地域で行われるイベントに伴う清掃をはじめとしたボランティア活動に積極的に参加。自分たちの住むまちの美化活動などに取り組みながら、地域の方々とふれあい交流を深めている。

酒匂中学校

《公園整備活動で地域貢献》

地域子どもたちや高齢者が安心して集い語り合える場となるよう、生徒会が中心となり公園の整備（立て看板作り、花壇の柵の塗装、花植え、ゴミ拾い）に取り組んでいる。地域の方からも感謝され、とても有意義な活動となっている。

◆ 青少年の育成と地域「あいさつの大切さ」

（青少年問題協議会での委員発言より）

3年ぐらい前の話になるが、ある生徒が、他校の生徒に対していじめをしていた。その後に、いじめを受けていた側の学校の先生から、問題解決の相談があった。それから一ヶ月間、私は朝と晩、駅前に立ち、道行く生徒たちに声をかけ続ける「あいさつ運動」を始めた。およそ一ヶ月が経った頃、いじめをしていた生徒が私のところに来て、「いじめを受けていた本人にあやまりたい」と言ってきた。それならばと連絡をとったところ、いじめをしていた生徒は、いじめられていた生徒へ謝りに行った。それ以降、生徒たちの間で、トラブル等は一切起きていない。そればかりか、いじめをしていた生徒の方から、いじめを受けていた生徒に対して、あいさつをするまでになった。「あいさつ」を通じた「ふれあい」や「人との繋がり」が、生徒の「こころの動き」をもたらしたのだと思う。

城南中学校

《防災訓練で地域連携》

早川地区の防災訓練に参加。断水を想定した訓練で、学校から離れた貯水槽からの水の運搬やポリバケツに汲んだ水のリヤカー運搬など、もしもに備えた地域住民との連携の向上に取り組んだ。訓練により、地域の方々との役割分担が明確になり、共通認識も生まれ、防災を通じた地域連携の中に加わることができた。また、地域の美化活動にも積極的に取り組んでいる。

防災活動での地域との連携

城北中学校

《体験活動と地域防災の連携》

春先からトマト栽培の実習を始め、収穫時には近隣の保育園・幼稚園から園児を招待し、一緒に収穫を体験した。これにより、保育園・幼稚園・中学校の交流を深めることができた。その後実施された地域の防災訓練では、中学生が園児を避難誘導し、また、園児もトマト収穫で交流のあったことから、自然な形で中学生におんぶされるなど、円滑で迅速な避難ができた。なお、防災訓練では、自治会、青少年育成会、警察などの地域の方々とも連携した取り組みを行っている。

トマト狩り以外の行事にも園児を招待し、おんぶの練習をしています。

バザーでは非常用炊飯袋での炊飯も体験。炊き出しバーナーで作った豚汁も販売しました。



白鷗中学校

《総合学習を活かした地域防災協力》

総合学習で学んだ非常時の炊き出し体験などをPTAバザーにて披露。地域の方々や小学生にわかりやすく説明・指導した。また、自治会や小田原総合ビジネス高等学校等と連携し、合同津波対策避難訓練に参加。地域の方々とのコミュニティづくりに協力している。さらに、震災復興に係る募金活動にも取り組んでいる。

◆ 青少年の育成と地域 「子どもと大人が交じり合っていない」

(青少年問題協議会での委員発言より)

「青少年の健全育成と地域」というテーマは全国共通の課題である。今の時代、欠けていると思うのは、子どもと大人が交じり合っていないところである。北海道の恵庭市で通学合宿という取り組みがある。地域の大人が地域の子どもの面倒を見ながら、一週間もの間、児童館などに泊まりながら学校に通うもので、現在、北海道教育委員会がこの取り組みを道内に広げていこうとしている。実際に、私が子ども達に一番何が楽しいのかと聞くと、返ってきた答えは「銭湯に行くこと」だった。単純なことと思われるかもしれないが、日常的に「裸のつきあい」が希薄となっている彼らにとってはそうしたふれあいが魅力的に感じるのだろう。